

文責：小櫛和子

1. 委嘱状の交付
2. 委員・アドバイザーの紹介
3. 議題

(1)正副会長の選出

(2)第 2 次富士山おむすび計画平成 26 年度計画評価及び平成 27 年度実施計画について  
当局より説明（事前に資料を配布）

(3)「第 2 次富士山おむすび計画各課平成 26 年度自己評価及び平成 27 年度取組方針」に  
について

事前に配布された資料を読み取り、推進会議委員から質問票が出される。

「平成 27 年度食育推進連絡会」の各行政担当課長から回答。

質問、意見交換。

(質問・回答・意見等の抜粋)

- \* 幼稚園協会：園児対象のアンケート調査は、市全体を通じた啓発の視点で、公立だけでなく、私立の園も対象にすることを検討して欲しい。
- \* 給食の会：「富士市学校給食地場産品導入協議会」に、平成 27 年度は市の予算もついたので、農政課の事業として今まで以上に積極的に取り組んで欲しい。
- \* 給食の会：生活習慣病の予防で、肥満についての取組も大切だが、成長期の「やせ」も大きな問題となっているので、肥満と同様に取り組んで欲しい。  
→学校の内科検診では、肥満・やせ共に内科受診をすすめている。
- \* 給食の会：まちづくり課、健康対策課、保健医療課、多文化男女共同参画課などが、地域のまちづくりセンターで行っている「料理講座」、「食育講演会」などは、食育推進室が窓口となり事業協力できないか？  
→協力している事業もあるが、各課の事業目的が違うので難しい。
- \* 給食の会：男女共同参画地区推進員が各地区で開催する「男性の料理教室」「親子料理教室」は、地域の食生活推進員等と連携したらどうか？  
→地区単独事業なので、連携して実施するのはいいことだと思う。

- \* 給食の会：環境教育（家庭での生ゴミリサイクル）を学校で行っているが、学校給食で出る生ごみリサイクルについても、食教育の一環として子ども達に伝えて欲しい。  
→学校給食から出る生ごみは、全て堆肥化されている。バイオ式生ごみ処理機のある3校では、処理後、学校で使用している。また、その他の学校の生ごみは、生ゴミプラントに運搬され堆肥化されるが、学校からの希望があれば譲ってもらえるので、子ども達が知る機会もある。
- \* 公募市民：学校給食を生きた教材として、望ましい食習慣を学べる食育を実践して欲しい。  
→学校給食は、年間182回すべてに食育指導の狙いを決めて実践している。また、保護者が家庭で活用できる和食のメニューを心がけている。
- \* 公募市民：観光のPR活動は、各課の連携・協賛・協働が重要ではないか？  
→連携を重視して進めている。
- \* 公募市民：「富士発・女と男のフォーラム」の講演会「日本の食と農の未来」は、多文化・男女共同参画課でなく農政課の内容ではないのか？  
→「富士発・女と男のフォーラム」は、市民団体の委託事業。富士市男女共同参画プランの中の「生涯にわたる心身の健康維持」を男女を問わず考える視点で行われた。

#### 4. アドバイザーから一言

- \* 静岡県富士健康福祉センター 医療健康課長

2015年版日本人の食事摂取基準では、5年前より塩分摂取基準が9gから8gと下がった。減塩プログラムなど、重点項目を決めていくことも必要。  
特に子どものころから健全な食習慣を育むことは大切。

- \* 静岡県富士健康福祉センター 衛生薬務課長

食品衛生・安全分野

野草を食べる機会もあると思うが、衛生面での注意を伝えきれていない。  
食材を安全に食べるための昔からの技を伝えることも大切と考える。

- \* 静岡県富士農林事務所 地域振興課長

高校生による和食給食メニューコンテストについて、富士・富士宮の高校にご協力いただいている。コンテストで評価されたメニューを実際の給食メニューに取り入れてもらえるよう働きかけている。  
富士市の子ども達は、地場産の美味しい給食を食べているので意識が高い。このコンテストをきっかけに、その次の世代にもつながって欲しい。  
農林事務所では、学校給食への地場産品利用拡大を進めている。